

報道関係者各位

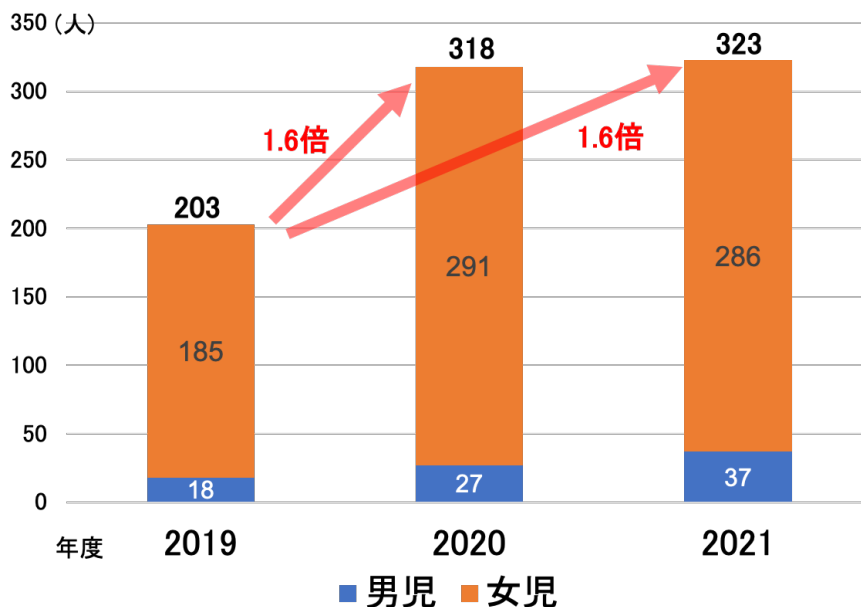
2022年11月17日
 国立成育医療研究センター

2021年度コロナ禍の子どもの心の実態調査
摂食障害の「神経性やせ症」がコロナ禍で増加したまま高止まり
 子どもの心の診療ネットワーク事業、全国の医療機関調査

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵、理事長：五十嵐隆）が行っている子どもの心の診療ネットワーク事業は、新型コロナウイルス感染症流行下の子どもの心の実態調査を行いました。子どもの心の診療ネットワーク事業の拠点病院・機関と、オブザーバー協力機関合わせて全国30医療機関（31診療科）の調査で、コロナ流行前の2019年度とコロナ禍の2020年度、2021年度を比較しました。2020年度に増加していた神経性食欲不振（神経性やせ症）¹の初診外来患者数（図1）と新入院患者数（図2）は、2021年度も男児、女児ともに減少することなく高止まりであることが判明しました。コロナ禍でのストレスや不安が影響していると推測されます。

摂食障害の子どもや青年の病床数が2020年度に引き続き不足していることも判明し、摂食障害を治療できる医療機関の拡充が求められます。また、家庭や教育機関では、子どもの食欲や体重の減少に気を配り、深刻な状況になる前に医療機関の受診につなげる必要があります。

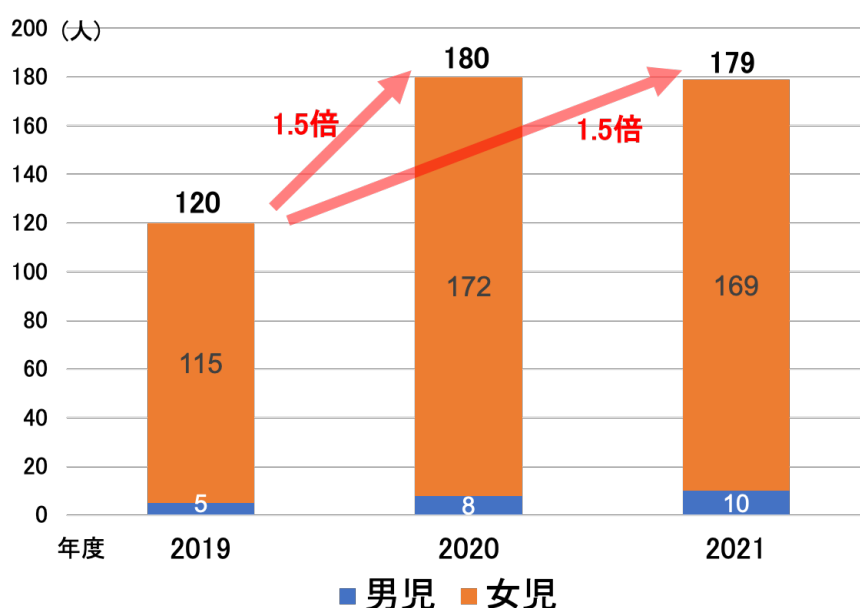
【図1】初診外来患者数（神経性やせ症）（有効回答数 24 医療機関・25 診療科）²



¹神経性やせ症とは、摂食障害の一つです。極端に食事制限をしたり、過剰な食事後に吐き出したり、過剰な運動を行うなどして、正常体重より明らかに低い状態になる疾患です。病気が進行すると、日常生活に支障をきたすこともあります。アメリカ精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル第5版（DSM-5）では、①正常の下限を下回る低体重、②肥満恐怖あるいは体重増加を妨げる行動の持続、③自己評価に体重や体型が不相応な影響を受け、低体重の深刻さが認識できないなどの特徴が挙げられています。

² 質問項目ごとに、有効回答数が異なります。例えば、神経性やせ症と神経性過食症を合算で回答した病院などは初診外来患者数、新入院患者数の集計から除き、単年度分のみのデータを提出した医療機関は集計から除外しています。

【図2】新入院患者数（神経性やせ症）（有効回答数 19 医療機関）



【プレスリリースのポイント】

- ・ コロナ禍で、食事を食べられなくなる神経性やせ症が増加し、2020 年度に引き続き 2021 年度も外来患者数、入院患者数ともに高止まりしたままでした(図 1、図 2)。
- ・ しかし、摂食障害の患者のための病床数が、2020 年度に引き続き不足していることが分かりました。摂食障害の病床充足率(現時点で摂食障害で入院している患者数/摂食障害の入院治療のために利用できる病床数×100)は、2019 年度と比べ、2020 年度、2021 年度に高止まりまたは増加している病院が多く、中には 300%を超える病床充足率の病院もありました³。摂食障害を治療できる医療機関が少ないこともあり、特定の病院に入院患者が集中していることが推測されます。
- ・ 神経性やせ症の患者増加の背景には、新型コロナウイルス感染症の流行による生活環境の変化によるストレス、感染拡大による休校・学級閉鎖、行事などのアクティビティが中止になったこと、新型コロナウイルス感染症への不安などがあると推測されます。
- ・ コロナ太り対策のダイエット特集の報道や SNS での情報や、運動を推奨する教員や保護者などからのアドバイスに、子どもたちが過度に影響を受けた可能性も考えられます。

【背景・目的】

新型コロナウイルス感染症の流行で、子どもたちの生活も大きく変わり、長期化によって心にも様々な影響を及ぼしています。そこで、国立成育医療研究センターが行っている子どもの心の診療ネットワーク事業では、コロナ禍の子どもの心の実態調査を把握するため、2022 年 4 月～5 月末に本調査を実施しました。子どもの心の診療ネットワーク事業とオブザーバー協力機関の全国 30 医療機関(31 診療科)にアンケートを送付し、20 歳未満の患者について回答を得ました。なお、神経性やせ症と神経性過食症を合算で回答した 2 機関および単年度分のみでのデータ提出だった 2 機関はこのプレスリリースの集計からは除外し、3 年度分の推移が分かる 26 病院(27 科)のデータをまとめました。

³ 摂食障害の患者のため病床数は基準があるわけではなく、それぞれの病院ごとにおおまかに決めています。病床数不足の参考データとして記載させていただきました。

【今後の展望・発表者のコメント】

- ・ コロナ禍の長期化で、2020 年度と変わらず神経性やせ症の患者数が高止まりしている状況で、入院病床数を確保することが必要になっています。また摂食障害を診察できる医療機関の拡充も求められています。
- ・ 神経性やせ症の場合、本人が病気を否認して医療機関での受診が遅れがちです。子どもの食欲や体重の減少に家族や教育機関で気を配り、深刻な状態になる前に、まずは内科、小児科などのかかりつけの医を受診することが必要です。

【子どもの心の診療ネットワーク事業とは】

都道府県などの地方自治体が主体となり、事業の主導的な役割を担う拠点病院を中心に、地域の病院・児童相談所・保健所・発達障害者支援センター・療育施設・福祉施設・学校等の教育機関・警察などが連携して子どもたちの心のケアを行っています。また、地域でのよりよい診療のため、子どもの心を専門的に診療できる医師や専門職の育成や、地域住民に向けた子どもの心の問題に関する正しい知識の普及を実施。さらに、地域内のみならず、事業に参加している自治体間の連携も強化され、互いに抱える問題や実施事業に関する情報共有も盛んに行われています。国立成育医療研究センターは中央拠点病院となり、この事業を運営しています。

【調査協力 医療機関名】(五十音順)

30 病院(31 科) 一覧

<子どもの心の診療ネットワーク事業 拠点病院・機関>

- ・ 石川県立こころの病院(旧石川県立高松病院)
- ・ 岩手医科大学附属病院 児童精神科
- ・ 大阪精神医療センター
- ・ 岡山県精神科医療センター**
- ・ 金沢大学附属病院 子どものこころの診療科
- ・ 九州大学病院 子どものこころの診療部
- ・ 熊本県発達障がい医療センター
- ・ 高知大学医学部附属病院 子どものこころ診療部
- ・ 国立病院機構医王病院(小児科)
- ・ 国立成育医療研究センター
- ・ 四国こどもとおとなの医療センター**
- ・ 静岡県立こども病院 こころの診療科
- ・ 島根県立こころの医療センター
- ・ 信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部
- ・ 千葉大学医学部附属病院 精神神経科・子どものこころ診療部
- ・ 東京都立小児総合医療センター
- ・ 鳥取大学医学部附属病院
- ・ 長野県立こころの医療センター駒ヶ根
- ・ 長野県立こども病院
- ・ 肥前精神医療センター**
- ・ 兵庫県立ひょうごこころの医療センター
- ・ 三重県立子ども心身発達医療センター
- ・ 山梨県立あけぼの医療福祉センター
- ・ 山梨県立北病院**
- ・ 山梨県立こころの発達総合支援センター
- ・ 琉球病院

<オブザーバー協力>

- ・ 神奈川県立こども医療センター
- ・ 獨協医科大学埼玉医療センター
子どものこころ診療センター
- ・ 和歌山県立こころの医療センター
- ・ 九州大学病院 心療内科 *
- ・ 社会医療法人公徳会 若宮病院 *

* の病院は、2020 年度の調査には参加していませんでしたが、今回の調査で 2019~2021 年度 3 年分のデータを提出下さったので、本プレスリリースでの 3 年間の推移の報告に含めています。そのため、2021 年 10 月 21 日にプレスリリースで発表しているデータと 2020 年度の数値が異なります。

**の病院は、調査にご協力くださいましたが、神経性やせ症と神経性過食症を合算での回答、または単年度分のみのデータ提出でしたので、3 年間の推移を調べた本プレスリリースの集計からは除外させていただきました。

【問い合わせ先】

国立成育医療研究センター 広報企画室 近藤・村上 電話:03-3416-0181(代表) e-mail:koho@ncchd.go.jp